



## ◆◆ 人生の方向転換 ◆◆

LVJCC 牧師: 鶴田健次

ルカの福音書は、読むたびに、ストーリーテラーとしてのルカを思い浮かべさせます。ルカは、独自の資料をもとに、とても興味深い話をたくさん残していますが、きょう取り上げるザアカイの回心物語もそのひとつです。ザアカイの回心物語は、人々から容赦なく税金を取り立てていたザアカイが、人に嫌われ、人から疎外されるような寂しい生活の中から、イエス様との出会いを通して愛の人を作り替えられていくという物語です。

### ① 人々からの疎外

ザアカイは背が低く群集にさえぎられていたのでイエス様を見るために木に登った、と書いてあります。この言葉には、文字通りの状況描写と共に、彼が疎外されていた人であったという事実が示唆されているようです。ユダヤ人でありながら、敵国ローマに仕え、その権力をかさに同胞たちから法外な税金を取り立て、その一部をポケットに入れて私腹を肥やしていた彼は、同じユダヤ人たちから、恥知らずの売国奴ということで軽蔑されていたのです。

ところが、どんなに間違った行為であっても、「自分は正しい」と思わなければ人は生きていけません。こういう心の態度を、心理学では「安全操作」と呼びます。つまり、自分を疎外した社会や人々に、理由付けをもって復讐をするという態度です。おそらくザアカイは子供の頃から疎外感を感じながら生きてきたのでしょう。やがてローマ帝国の手先となり、自尊心を捨てて、祖国ユダヤを植民地にしているローマ帝国と運命を共にしようとしたのです。つまり自分が生きるはずの世界が自分を疎外したので、その世界に刃を向けてしまうようになったのです。

### ② イエス様による受容

イエス様は、木の上にいるザアカイに声をかけ、「きょうは、あなたの家に泊まることにしている」と仰いました。この言葉には

どんな意味があるでしょうか。ザアカイはその声を聞くなり、滑るように木から下りて来ました。このザアカイの行動に、この言葉の意味が暗示されています。これは「ザアカイ、私はあなたをありのまま受け入れますよ」というメッセージです。この「泊まる」という言葉は、もともとは「荷を降ろす」という意味の言葉です。つまり、イエス様は、ザアカイのすべての罪の重荷を降ろさせるために彼の家に泊まろうとなされたのです。

自分のありのままを受け入れてもらえる事ほど、私たちにとって心休まるものはありません。人は、愛され、受け入れられ、信頼されると、その愛し、受け入れ、信頼してくれた人の期待を裏切らないように心掛けるようになります。どんなに罪人のレッテルを貼られた人であっても、あなたは神の愛と祝福を受けられるべき人であるとイエスは見て下さるのです。

### ③ 人生の方向転換

さて、イエス様はこの物語の最後の部分で、「今日、この家に救いが来た」と宣言されました。この救いとは、もちろん罪の赦しですが、同時にザアカイの人生の変革を意味しています。つまり、自分のありのままを受け入れられたザアカイは、人生の変革を経験するのです。

ピクター・フランクルは、「もし私たちが人々をありのまま受容するならば、彼らはさらに悪くなる。しかし、もし私たちが彼らにあるべき最高のものであるかのように受容すれば、彼らになりうるものになるのを私たちは助ける事が出来る」と言いました。イエス様は、ザアカイのありのままを受け入れられたとき、十字架の愛を彼に向け、彼を神の御子の命に等しい価値ある者として受け入れておられたのです。

そこでザアカイは、「主よ、私は財産の半分を貧しい人々に施します。……」と言うのです。私たちは、このザアカイの決意の中に、大きな変革を見る事が出来ます。自己中心から解放されて、神と人との心が開かれた姿が見えます。獲得する生き方から、分かち与える生き方、奪うあり方から捧げるあり方、そんな方向転換を見る事ができるのです。

## DREAMS COME TRUE

- ✦ 教会堂の建設
- ✦ 敬老ホームの設立
- ✦ 幼稚園の設立

### お祈りのリクエスト

- 日本の家族の救いのために
- 各スモールグループのオイコス伝道のために
- 入門者クラスのために (田中兄、亜津子姉、彩沙姉、ミミ姉、和江姉)
- 英語部の働きのために
- ユースミニストリー、サンデースクールのために
- 癒しの祈り: 恵理奈ちゃんの網膜芽細胞腫、植木ケン兄の糖尿病、神崎先生の目、倉田一徳さんの脳腫瘍、新井雅之兄の癌、中村裕二先生の直腸癌、藤永君江姉の癌、以津子姉、Kahokuさん、Simeon 兄の癌、山口スカイ君の心臓

Desert Wind では、ご意見・質問等何でも受け付けております。

lvjccdw@hotmail.co.jp

発行人: 鶴田健次

編集人: 松岡みどり



## 編集室 雑記

Tropicana & Decatur の角に整地されていない砂漠のままの一角がある。そこが去年の12月から工事が始まった。真中をフラミンゴ・ウォッシュが通っているの、ウォッシュを残して周りを公園とアスレチックフィールドにする計画。その工事風景が家のベランダから良く見える。76エーカーの広さの中を動き回る十数台の工事用特殊車両は、さながら怪獣のようだ。怪獣が馴染みの野良猫や鳥たちを追い払った。ベランダからは見下ろす感じになるので、怪獣達の動きが手に取るように分る。私は仕事の合間、疲れた目を休めに時々ベランダに出る。広い土地なので大きいダンプカーもおもちゃのようだ。そこに働く人間は設計図に従い、神様はそれをも含めた宇宙大の設計図をお持ちで、全てを瞬時に完璧に動かされる。そんなことをある日の屋下がり、工事を眺め思った。

## 光を求めて

証し / 早織 Stinson

最初に私がこうして神の十字架の救いの恵みに与かれ、お証しをできる事を感謝し、神の御名を賛美いたします。私早織は、几帳面な祖父母、共働きの父母、15歳離れている叔母、天真爛漫で甘え上手な2歳年下の妹の7人家族の中で育ちました。小さい頃は、病弱でしたが大きくなるに連れ体も強くなり、スポーツが大好きな活発な女の子になりました。

そんな私が15歳の時に、高校のホームステイプログラムでオーストラリアを訪れる機会がありました。その時お世話になったホストファミリーは、8人兄弟・姉妹の養子を迎え、そしてまたポリビアからの留学生をも迎えていた寛容な家族でした。素晴らしい家族との生活の中で育まれていった絆は大きく、英語が殆ど話せなくても気持ちは通じるんだ！と肌で経験した事が自信となり、今度はアメリカに来て、以前から興味があった心理学を学びたいという思いが与えられました。

大きな目標を掲げ渡米しましたが、この時訪れたサンディエゴで主人と出会い、子供を授かった事がキッカケで結婚をし、学校を諦めました。主人の家族の勧めにより、学校とは離れた主人の実家に引越し、車もない不便な生活が始まりました。右も左も知らない私が初めての妊娠、出産、子育てを異国の地で乗り越える事は至難の業でした。次々と大きなハリケーンが上陸していくようなめまぐるしい状況の中、気づいたらビザが切れてしまい状況は益々悪くなっていく一方でした。毎日が溜息、鏡に映る私の瞳の中には、アメリカに来た当時の輝いている自分はいませんでした。いままで向かって歩いていた希望は瞬間に消え去り、急にジャングルの奥地へ放り出されてしまったような感覚を覚え、唯々時間だけが過ぎていく日を送っていました。毎日を思いっきり楽しんでいた以前の私の人生とは打って変り、不自由で心を閉ざした暗い毎日に変わり果てていました。

時が過ぎ、そんな毎日に慣れた頃、ラスベガスに引越し、ラスベガスサイズにより教会の存在を知りました。教会に初めて行ったのは、双子が生まれた直後でしたが、毎週行くことはできず半年毎のペースで行ってしま

した。いつからか香織姉妹の子育て勉強会に参加することとなり、香織姉妹の優しさに感動し、この人がいる教会なら毎週行こうと思ひ、それから教会に毎週行きはじめました。その後、思いつきで取りはじめた初心者クラスが始まり、今まで私とは遠かった神の事を身近に聞く機会が増える様になりました。クラスを取り始めた当初は、この先にはきっと私が以前いたキラキラ輝いていた場所に戻るかもしれないとの期待で胸一杯でした。ずっと私は、自分の選んだ道を後悔しどうやったらあの頃に戻れるのかと考えてましたから。でも、ふたを開けてみると、私の想像を超えるものが存在している事に気付いたので。毎週の鶴田先生とのクラス、ほぼ毎日姉妹とする神の話、数々の祈りへの応答、そんな満たされる経験を何度もし、気づいたら喜びと希望の光の中に自分がある事を発見しました。それは、自分の心の動きや人の評価等からくるものではなく、絶対的で不変な安心感の中にあるものでした。それが神から来るものだと知り、私は、何の抵抗もなく真っ直ぐ神を見つめ信仰告白をしました。

あれから、そろそろ2年ほど経ちますが、今後の私の目標は、マタイの福音書 6:33『神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。』と、イザヤ書 40:31『主を待ち望む者は新たな力を得、わしのように翼をはって、のぼることができる。走っても疲れることなく、歩いても弱ることはない。』です。神と自分の関係性である、親と子供。神は私に3人の子供を預けてくださった事により、私はこの尊き関係の理解を深める事ができました。子供がいるなかで、不自由になる出来事も、神に求める者は喜びをもってそれを達成できる事をおしえてくださったのも、夫婦関係・人間関係の中で弱き所こそを愛し支える神の中に垣間見れる“究極の愛”も、全てを私に教えてくださったお方は神様です。わたし自身、今度はその教えを人々に分かち合う者として主に仕えていけたらと思います。

神の約束である聖書の御言葉一つ一つが、日々の神体験により救いへの確信となって行くことに、感謝です。神との出会いがあったからこそ、私の人生は光の中にあることができます。これからは、主の光を現せるものとしてあれたらと思います。